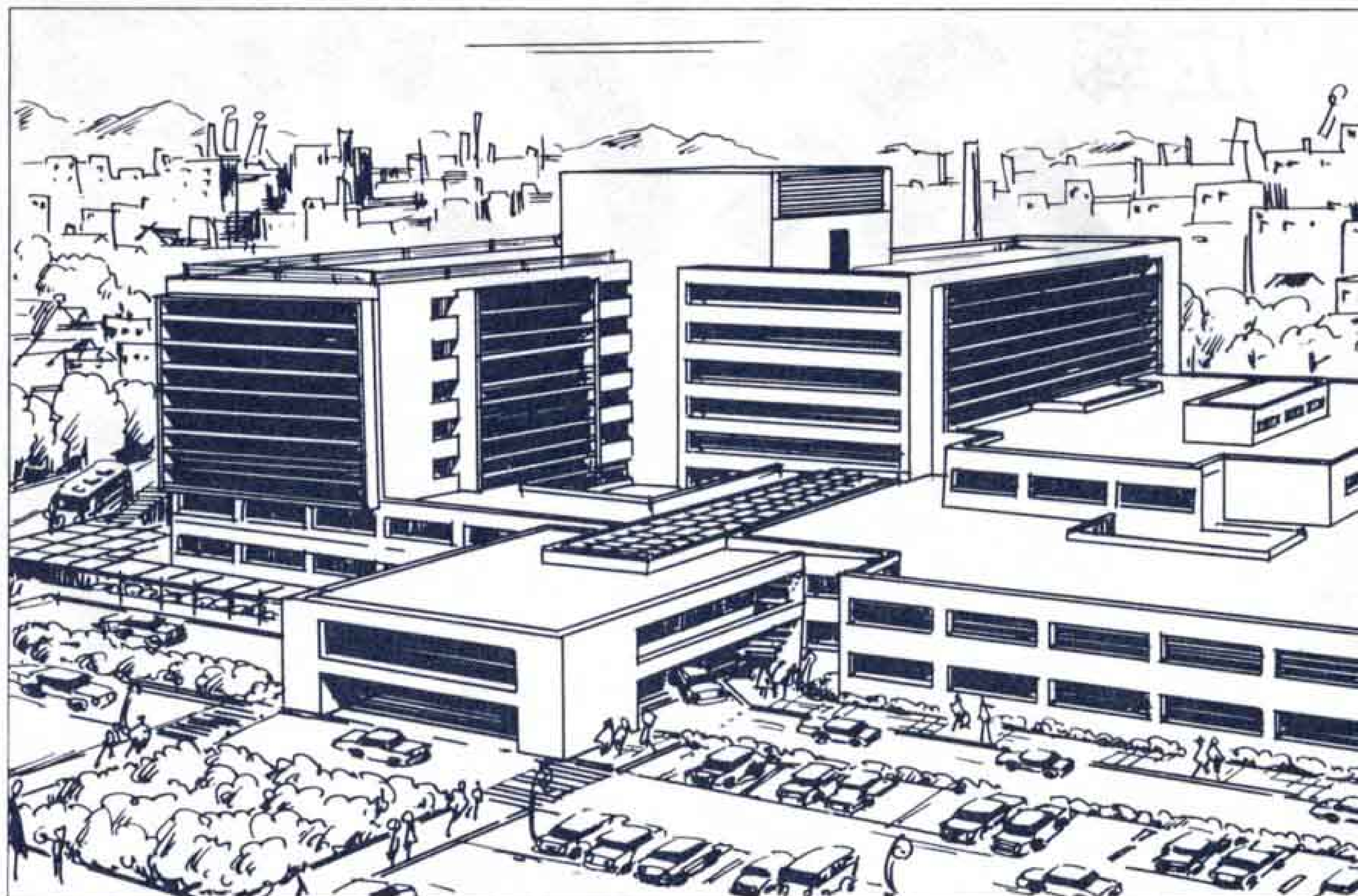
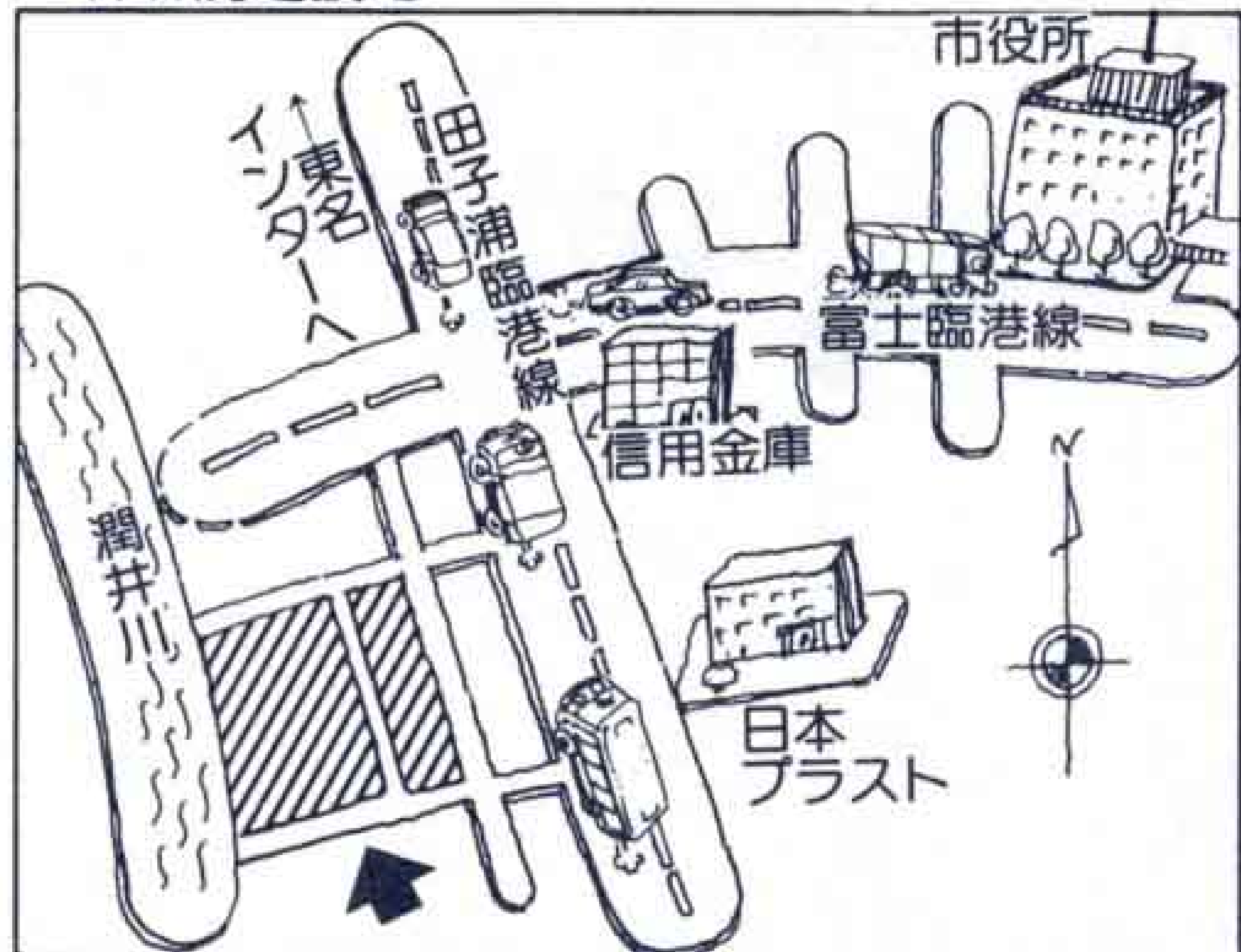


新病院建設地



新病院完成予想図

医療水準の向上を目指して 市民の健康と

市立病院建設基本計画

市民のみなさんから高い関心を寄せられている新病院建設の基本計画が、6月の市議会特別委員会では了承されました。市は、この基本計画をもとに、今後、建設にむけての本格的な作業に入ります。市民の命と健康を守り地域医療の向上に、より一層の期待が寄せられている新病院。その基本設計について概要をお知らせします。

新しい病院を建設

市立中央病院は、昭和24年に富士町立病院として開設以来、地域の基幹病院として医療水準の向上につとめるとともに、多くの市民に利用されてきました。

開設以来、増改築を重ね、現在、伝染病棟を含め346床の病床と、11科の診療科があります。昨年1年間の利用者は、入院患者9万6,500人、外来患者20万3,000人。外来患者は1日平均で684人にもなります。

このように、多くの市民に利用され、親しまれている市立病院ですが、

病棟など建物の老朽化、ベッド数の不足、さらには医療技術の向上などにより、市民のみなさんの医療需要に応じきれなくなっているのが現状です。これらの問題を解決し、総合病院としての機能を十分に発揮できる病院とするには――。多方面からの検討が加えられた結果、みなさんにすでにお知らせしてあるように、新しい場所へ新しい病院をつくることとなりました。

基本は3つの柱

病院の建設場所は、依田原新田地先、田子浦臨港線西側の潤井川添い

田子の浦港が特定港に

県内では清水港に次いで2番目

田子の浦港が港則法（港内の船舶安全等の規則）にもとづく特定港に指定されました。この特定港というのは、日本の経済に大きな影響を及ぼす港湾ということで、国が指定します。したがって、田子の浦港が国際的に認められたこととなります。

県内では清水港に次いで2番目、全国では74番目の指定になります。

特定港に指定されたことにより、危険物の荷役届け出業務などが、海上保安部田子の浦分室に移管され、さらには港内の安全も、より確保されるようになります。

